

Title	【第二回日韓キリスト教関係(交流)史研究国際シンポジウム】 論文について
Author(s)	松本, 周
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.53, 2012.3 : 111-111
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4246
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

【第二回日韓キリスト教関係(交流)史研究国際シンポジウム】論文について

以下に収録された各論考は、二〇一一年一月二五日、韓国・長老会神学大専校(大韓イエス教長老会・統合派)で開催された「第二回日韓キリスト教関係(交流)史研究国際シンポジウム」での講演およびコメントに基づき、各担当者自身が加筆・修正を施したものである。

二〇一〇年―日本による韓国の強制併合一九一〇年より一〇〇年―を期して開始された本研究は、二〇一一年二月に東京で第一回研究会を開催し、先行研究の概観と整理を行った。そして第二回となる今回は「三・一独立運動と民族自決主義」を主題に掲げ、韓日双方より講演者とコメントーターを立て、国際シンポジウムとして開催した。

韓国からの講演者は「三・一運動の準備過程とキリスト者の役割」と題し、李致萬・長老会神学大専校研究教授が担当した。それに対し、日本からのコメントーターとして松谷好明・聖学院大学総合研究所教授が応答した。また日本から「一九一〇年代の韓日教会とリベラル・デモクラシー―現代が学ぶべきこと」との題で松本周・聖学院大学総合研究所教授が講演、韓国からのコメントーターを朴ヨソク^{パク}・長老会神学大専校研究教授が担当した。講演および議論の具体的内容は各稿に譲ることとした。

シンポジウム当日の発表は各演者の母国語で行い(松本講演の挨拶のみ韓国語)、韓日両国語の原稿を配布したが、今回の掲載にあたってはすべてを日本語で収録した。韓国語版については、長老会神学大専校により公刊される予定である。

(松本周)